

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専攻	国際交流・協力コース	対象学年	2年
講義日	令和 5年 9月 29日(金)		
テーマ	地球環境とエネルギー利用 (1)		
講師	和田 武		
講義内容 地球環境とエネルギー利用 (1) 午前：「地球温暖化防止とエネルギー利用」 まず、地球温暖化の現状と未来予測に基づき、気温上昇を 1.5℃未満にする必要性を解説する。特に今後の不可逆的環境破壊現象については詳しく述べる。その上で、パリ協定や COP 等の地球温暖化防止に向けた国際的取り組み、持続可能なエネルギー利用のあり方として再生可能エネルギー（以下、再エネ）中心社会への転換の重要性について論じる。 午後：「世界の最新エネルギー動向とその特徴」 世界的に 2022 年に再生可能エネルギー発電設備の導入量が史上最高を記録するなど、最近、再エネ普及は急増している。その特徴として途上国での普及増、再エネ発電コストの低下、再エネ 100%計画を持つ国の増加、市民参加による普及増加等がある。一方、原発は停滞傾向にあり、発電量に占める比率は低下していることも論じる。			
講師からのメッセージ 将来も人類が健全に生存していく上で地球温暖化・気候危機防止は不可欠であり、「待ったなし」の段階にきています。国際社会はそれに向けて急速に再エネ中心社会に転換しつつあり、再エネ普及が進んでいます。現状を認識していただければ幸いです。			

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専攻	国際交流・協力コース	対象学年	2年
講義日	令和 5年 10月 13日(金)		
テーマ	地球環境とエネルギー利用 (2)		
講師	和田 武		
講義内容	<p>地球環境とエネルギー利用 (2)</p> <p>午前：「再生可能エネルギー普及先進国；ドイツとデンマークの取り組み」 ドイツとデンマークの再エネ普及の先進的取り組みの成果と、それをもたらす積極的政策と市民・地域主導の取り組みについて述べる。具体的な事例をもとに再エネ普及が地域社会を発展させ、GDP 増加やエネルギー自給率向上など社会に好影響をもたらし、その結果として再エネ普及を世論が支持し、さらなる普及政策が採用されるという好循環を説明する。</p> <p>午後：「日本の再生可能エネルギー普及による持続可能な社会の構築」 日本の再エネ普及は 2012 年の電力固定価格買取制度 (FIT) の施行によって進み始めたが、2012 年以降は普及ペースに鈍化傾向が見られ、世界から大きく立ち遅れている。その背景に原発や石炭火力に固執し、再エネ普及目標が低いなど、政策面で多くの問題点がある。それらを克服して普及を促進し、持続可能な社会を構築するための政策課題や市民の役割について論じる。</p>		
講師からのメッセージ	<p>気候危機防止と再エネ普及に先進的に取り組むデンマークやドイツでは市民参加が重要な役割を果たしています。発電量中の再エネ比率が世界で 122 位と大きく立ち遅れている日本ですが、わが国や私たち市民が地球環境を守る国際的責務と将来世代への責務を果たすために何をすべきかについて、考える機会になれば幸いです。</p>		

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	国際交流・協力コース	対象学年	2 年
講義日	令和 5 年 12 月 1 日(金)		
テーマ	ミャンマー難民との共生を考える—ドキュメンタリー映画「OUR LIFE」制作の背景を通して		
講 師	国際ファッション専門職大学／京都大学東南アジア研究研究所 直井 里予		
<p>講義内容</p> <p>ねらい:本講義では、講師本人が制作した難民に関するドキュメンタリー映画の参考上映とディスカッションを通し、国際協力や難民の支援活動について理解を深めます。</p> <p>内容:</p> <p>① 国際問題の根源的要因を深く考察する。(ミャンマーの少数民族問題を事例に、紛争の歴史的背景を理解する)</p> <p>② 難民キャンプにおける国際 NGO(ボランティア)の役割を理解する。</p> <p>東南アジアは、多様な民族、宗教、文化で構成されています。その多様性を共存させつつ、民族や宗教の抗争や貧困など、多くの問題も抱えています。このような多様性の中で、人々はどうのように社会で関係性を形成し、維持しているのでしょうか。また、人々の日々の生活を支える地域の諸問題を解決するには、どうすればよいのでしょうか。</p> <p>本講義では、タイ・ミャンマー国境に位置する難民キャンプで生まれ育ったミャンマー難民の少年とその家族の生きざまと心の軌跡を 10 年間に渡り描いたドキュメンタリー映画『夢の終わり—OUR LIFE 2』を通して、ミャンマー難民は、難民キャンプの変化とどのように関わりながら生き、第三国定住地でどのような社会関係を形成しているのか、また、国際 NGO 団体の活動内容を紹介しながら、難民キャンプにおける NGO の役割に関して考察します。</p> <p>さらに、2021年 2 月1日のミャンマーで発生した軍によるクーデターが、難民の帰還にどのような影響を与えたのかを考察しながら、ミャンマーの現状を難民問題の視点から議論します。</p>			
講師からのメッセージ			
<p>映画の上映の後は、各グループにわかれて、ディスカッションと発表を行います。日本における難民の受け入れ政策や難民支援の在り様など、皆さんと一緒に考えていければと思います。</p>			

(令和5年度)

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専攻	国際交流・協力コース	対象学年	2年
講義日	令和5年12月8日(金)		
テーマ	政府開発援助(ODA)の政策とその評価		
講師	神戸学院大学法学部 非常勤講師 三上真嗣		
講義内容			
<p>昭和29(1954)年に始まった日本の政府開発援助政策の歴史をふりかえり、「国際社会において名誉ある地位を占める」(日本国憲法前文)のために努力してきた先人の苦勞を偲び、あわせて、これからの日本の進路を考えていきます。そのために、外務省や実施機関における「政策」や「評価」を手がかりとして、外交や国際協力の実施を支える仕組み・仕掛けを解き明かしていきたいと思います。</p>			
1. 日本のODA			
戦後外交、人道支援、災害支援、日本経済、グローバル化 JICAと外務省、外務省と他省庁、外務省の企画・立案機能			
2. ODA体制の歴史			
経済協力局、国際協力事業団、海外経済協力基金 国際協力局、国際協力機構、国際協力銀行			
3. ODA「評価」(evaluation)			
評価と監査の違い、評価と予算、政策評価とODA評価			
4. 国内と国際の狭間			
アカウンタビリティの努力、国際機関・世銀との連携、日本の評価文化と国際社会			
5. ODAの新動向			
評価の国際動向、科学技術外交、感染症、紛争			
講師からのメッセージ			
<p>刻々と変化する国際関係のなかで未来を考えるためにも、過去を振り返り、現在を見つめていきたいと思います。かなり専門的なお話ではありますが、一緒に日本と国際社会の未来を考えていけたら嬉しく思います。</p>			

(令和5年度)

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専攻	国際交流・協力コース	対象学年	2年
講義日	令和 5年 12月 21日(木)		
テーマ	民族紛争		
講師	月村太郎(同志社大学教授、神戸大学名誉教授)		
講義内容			
<p>1989/1991年に冷戦構造が崩壊してから、旧ソ連、旧ユーゴ、ルワンダなど、各地で一斉に民族紛争が勃発しました。しかし、冷戦後の民族紛争と同じ現象は冷戦時代やそれ以前から起きてきました。それでは民族紛争とはどのような現象を指すのでしょうか。それは、民族に関わる集団的アイデンティティや居住地域を理由にした暴力的な争いであるということできます。</p> <p>この講義では、以下の3つの部分に分けて、民族紛争について論じてみたいと思います。 (1)民族とは何か (2)民族紛争の事例 (3)民族紛争はどのように防げるのか</p> <p>2001年9月11日の米国同時多発テロ事件以降、対テロ戦争が国際政治の中心的な関心となってきましたが、実はテロは民族紛争においてもよく使われる手法でした。そして、2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻についても、民族という側面から語る必要があるのです。</p> <p>日本は、世界でも非常に例外的に、日本国民と日本民族との一致度が非常に高い国家です。そのために、わたしたちは、民族や民族問題、民族紛争については、しばしば理解できないことがあります。しかしながら、これまでに触れたように、民族をめぐる問題は、世界に大きな影響を与える要因でもあります。</p> <p>民族紛争を切り口に、世界で何が起きてきたか、何が起きているかについて、理解を深めてもらうことが、この講義の目的です。</p>			
講師からのメッセージ			
<p>わたしたちには、なじみの薄い「民族」を理解するにはかなり難渋されるかもしれませんが、事例紹介で出てくる色々な人名や地名にも戸惑われるかもしれません。しかし、そうしたハードルを越えることで、国際情勢の歴史や現状を理解する視点が必ず増えていきます。一緒に頑張りましょう。</p>			